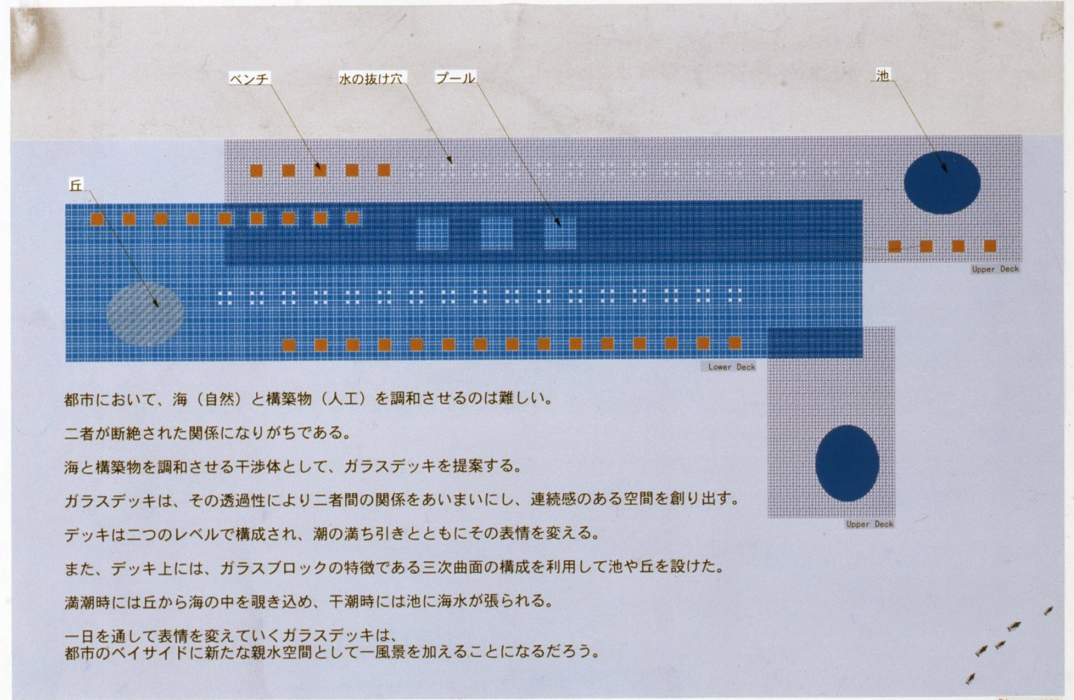
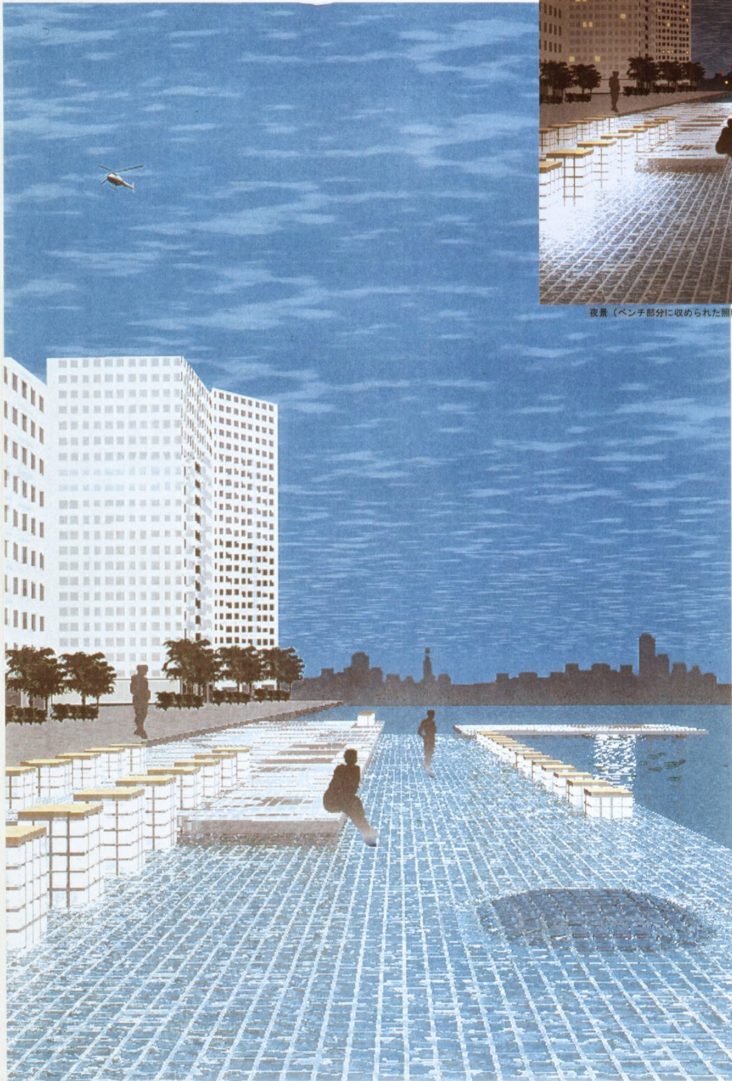




GLASS DECK

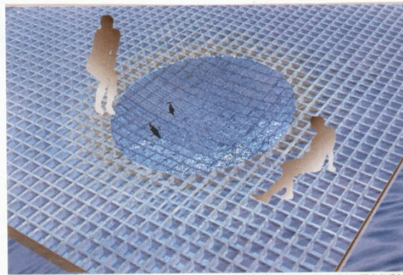


夜景（ベンチ部分に収められた照明が光り、ガラスデッキが輝きに照らし出される）

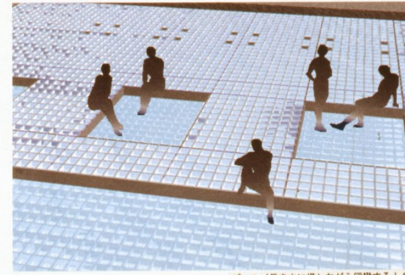


都市において、海（自然）と構築物（人工）を調和させるのは難しい。
 二者が断絶された関係になりがちである。
 海と構築物を調和させる干渉体として、ガラスデッキを提案する。
 ガラスデッキは、その透過性により二者間の関係をあいまいにし、連続感のある空間を創り出す。
 デッキは二つのレベルで構成され、潮の満ち引きとともにその表情を変える。
 また、デッキ上には、ガラスブロックの特徴である三次曲面の構成を利用して池や丘を設けた。
 満潮時には丘から海の中を覗き込み、干潮時には池に海水が張られる。
 一日を通して表情を変えていくガラスデッキは、都市のベイサイドに新たな親水空間として一風景を加えることになるだろう。

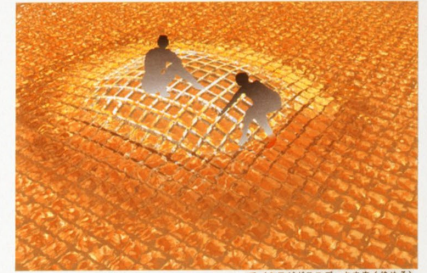
Plan 1:100



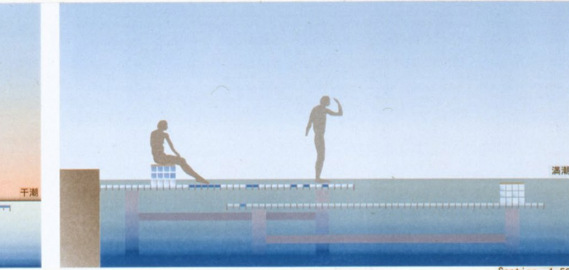
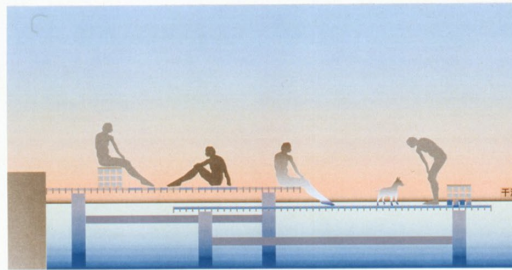
池（潮が引き、海水が池に張られる）



プール（足を水に浸しながら休憩する人々）



丘（夕日がガラスデッキを赤く染める）



Section 1:50



水の抜け穴（潮満ちて海水が溢れ出す）